

生物・心理・社会モデル
Bio-Psycho-Social model
とは？

近藤 直司
(大正大学)

生物・心理・社会モデル

Bio-Psycho-Social model

- BPSモデルを簡便に定義しようというのであれば、それは、すべての疾患が生物学的、心理学的、社会的な側面を持っているという見解のことだと言えるかもしれない。（N・ガミー、2010）
- BPSモデルは、「その事」が起きているという事態を、生物的次元、心理的次元、社会的次元の相互作用として認識する。それらは互いに関連しあうという認識がBPSモデルの出発点である。（渡辺、小森、2014）

N・ガミーによるBPSモデルの 歴史的検証 (2010)

1940年頃 Frankl, V.E.

1952年 Grinker, R.R.

1977年 Engel, G.L.

一方、公衆衛生学の領域でも…

ゴージェイエらの構想（1943）

健康(health)とは単に病気にかからない状態を指すのではなく、肉体的、精神的、道徳的に健全な状態を意味する。国際連盟保健機関は、清潔な居住環境の整備や栄養状態の改善など、幅広い事業を通じて、健康の達成を追求してきた。

WHOの結成と憲章における 「健康」の定義に結実（1947）

健康とは、病気でないとか、弱っていないという
ことではなく、肉体的にも、精神的にも、そして
社会的にも、すべてが満たされた状態(well-being)
にあることをいう。（日本WHO協会による訳）

- Well-beingには、幸福、福祉、福利などの訳語もある
- Social well-beingは良好な対人関係と生活環境を含む

まとめ：BPSモデルの成り立ち

- 全人的な理解を目指す精神医学
- 予防と健康増進を目指す公衆衛生学
- 1940年頃から医学に通底する概念に
- 1980年前後から医学教育の中心概念に
- 人、疾患、問題を捉えるための方法論
- 目標から実践的な認識論・方法論に

社会福祉実践とBPSモデル

- 慈善活動としてのChild Guidance Clinic（1920年、ボストン）における医師、心理職、SWの配置
- 我が国の児童相談のはじまり（1947年）
- ICFへの影響

参考文献

- 白田、玉城、河野：WHOの健康定義制定過程と健康概念の変遷について．日本公衆衛生誌、第51巻10号、2004
- C・ジョーンズ：アメリカの児童相談の歴史．明石書店、2005
- N・ガミー：現代精神医学のゆくえ バイオサイコソーシャル折衷主義からの脱却．みすず書房、2012
- 渡辺、小森：バイオサイコソーシャルアプローチ 生物・心理・社会的医療とは何か？ 金剛出版、2014
- 詫摩佳代：人類と病 国際政治から見る感染症と健康格差．中公新書、2020